

3の1大好き！ 学級歌作りプロジェクト

— ICTで協働的に音楽制作 —

松山市立北久米小学校 教諭 小田浩範

キーワード：小学校3年，学級歌，音楽制作，ミュージックビデオ制作，iPad

1. はじめに

この実践は、単に曲や作品の完成をねらうのではなく、グループごとに役割分担し、学級全員で協働的に取り組むことによって、学級作り・人間関係作りをねらったものである。学級歌を作成し、音楽に合わせて写真が歌詞と一緒に再生されるミュージックビデオを作成する「学級歌作りプロジェクト」に学級全体で取り組んだ。4月の学級目標を決める話し合いをスタートにして、7月に完成を迎えるまで、1学期を通した学級の一大プロジェクトとなった。

2. 実践について

2.1 対象

小学校第3学年29名（男子15名・女子14名）

2.2 実践上の工夫

(1) 話し合い、教え合い、協働的に取り組む。

プロジェクトのゴールを意識させながら学級をいくつかのグループに分け、それぞれのグループの成果が合わさって一つのもので出来上がるような仕掛けにして、グループの必要感を演出した。また、活動に合わせてICTとアナログを使い分けるとともに、ICTを活用する場面ではグループまたは2～3人に1台とし、必然的に話し合いや教え合いが行われるようにした。さらに、グループでの話し合いを重視する中で一人ひとりの必要感も演出した。このように、協働的に活動に取り組むことができる仕掛けを工夫した。

(2) 発達段階に合わせ、効果的にICTを活用する。

ア 節遊びで作曲してから伴奏作り

これまでに作曲経験のない小学校3年生にとって、いきなり曲を作ることは難しい。そこで、節遊びのできあがった節を並べることで作曲を行った。その後、GarageBandでぴったりの音色やリズムを子どもたちが選んで、メロディーに合わせてタップ操作で伴奏を仕上げていくことにより、無理なく作曲・伴奏作りに取り組むことができるようにした。

イ ジャストスマイルで分担・PowerPointで集約

3年生はまだローマ字を習っておらず、文字入力の経験もほぼない。そこで、ミュージックビデオ作りでは、ソフトウェアキーボードが使いやすいジャストスマイルの発表名人を使い写真に歌詞をのせるという形でスライドを作成した。数名で1枚を担当し、完成後、それぞれのスライドをPowerPointで集約し、曲に合わせて再生されるようにした。

3. 実践内容

3.1 プロジェクトの流れ

プロジェクト全体の流れは、本項下の図1のとおりである。

3.2 プロジェクトの実際

(1) 学級目標作り・・・(4月)

学期始めに、学級目標について話し合った。どんな学級にしたいか願いや思いをそれぞれ付箋に書き出し、グループでまとめていった。このような話し合いは初めてであったが、自然に拍手が起こったり、まなボードを相手の方に向けてあげようとしたりするなど、上手に話し合う姿が見られた。一方で、自分の意見を上手に言えなかったり聞き合えなかったりする姿も見られた。その後、全体で話し合っって学級目標が出来上がった。「3番までである、校歌みたい。」というつぶやきから、学級歌作りをしてみようということになった。

(2) 学級歌作り・・・(5・6月)

学級目標が決まった後、曲作りグループ、歌詞作りグループ（1～3番担当3グループ）、ミュージックビデオ作りグループの5グループに分かれて活動をスタートした。

ア 作曲（曲作りグループ：活動1）

曲作りグループでは、鍵盤ハーモニカやオルガンを使った節遊びから作曲を行った。8人を2人×4組にし、付箋に書いた8個の○（最後は4分休符）の中に階名を入れて2小節の節作りをした。さらに、似たものや繰り返しを作って、曲らしくつながるよう並べ替え、16小節を仕上げた。そして、メロディーだけをGarageBandで録音し、しばらくの間教室で流した。使い慣れた楽器を使い、2小節ずつ考えて組み合わせるという方法は、作曲に慣れていない子どもたちにとって楽しみながら曲になっていくことを実感できる方法であった。

イ 言葉集め（歌詞作りグループ：活動1）

歌詞作りグループの子どもたちは、実際の歌などから自分たちの願いにぴったりの言葉探しをすることにした。そして、見つけた言葉を付箋に書いてまなボードに貼りためていくという方法で、言葉集めを行った。黒板の隅に常にまなボードと付箋を置いておき、いつでも追加できるようにしておいた。すると、休み時間などに「いいこと思いついた」「いい言葉見つけた」と言葉を増やす姿が見られた。

ウ 歌詞作り（歌詞作りグループ：活動2）

曲作りグループのメロディーの完成を待って、各グループで話し合いながら、曲に合うように詩をつけて

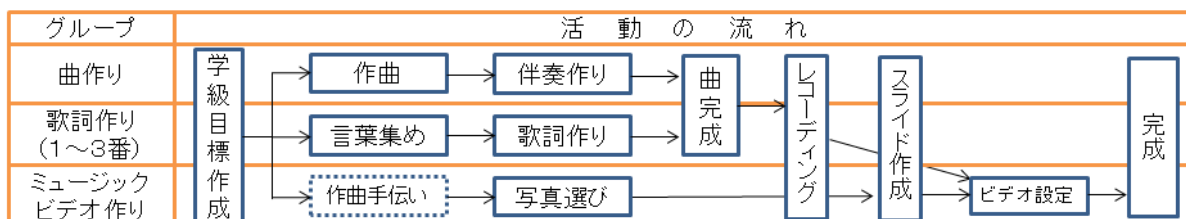


図1 プロジェクトの流れ

いった。集めた言葉を使って、メロディーに合わせて歌えるか、思いや願いはきちんと表れているかなど、話し合ったり試しに歌ったりしながら試行錯誤し、1～3番までそれぞれのグループで完成させた。



写真1 曲に合わせて歌詞を作る様子

エ 伴奏作り（曲作りグループ：活動2）

メロディーが完成した後、教師が付けておいたコードをもとにして、GarageBandを使って伴奏作りを行った。ドラム、ピアノ、ギター、ベースなどから、イメージにぴったりの音色やリズムを子どもたちが選んでいった。そして、子どもたちがタイミングを合わせて指でタップしながらコードを付けて伴奏を仕上げた。予想以上のできあがり子どもたちは驚き、喜んでいった。



写真2 iPadで伴奏をつける様子

オ 学級歌の完成

伴奏のおおまかな完成と歌詞の完成が同じ日となるように調整しながら作業を進めてきていたので、歌詞の完成と同時に試しに歌ってみることができた。子どもたちは何度も何度も繰り返し歌い、ついに完成したという大きな満足感を得ていた。

（3）ミュージックビデオ作り・・・（6・7月）

ア レコーディング

伴奏の完成後、紙に書いた歌詞をテレビに映しながら毎朝歌うようにしていた。歌い慣れた頃を見計らって、iPadを使い、GarageBandでレコーディングを行った。

イ 写真選び（ビデオ作りグループ：活動1）

他グループの活動と並行して、1学期始めから撮りためてきている写真の中から、ビデオ作りグループが学級目標のイメージにぴったりの写真を多めに選んできていた。そして、歌詞の完成を待って、歌詞に合わせて写真を選んだ。「青い空のように・・・」という歌詞には青空の下での遠足の写真、というように、こだわって選んでいた。

ウ 歌詞入りスライドの作成

ビデオ作りグループの指示に従い、歌詞作り1番グループは1番の歌詞4枚分、曲作りグループは最初のタイトルと最後、というように分担し、2～3人で1枚のスライドを仕上げるようになった。ジャストスマイルの発表名人を使い、写真に歌詞をのせるという形で作成した。文字入力の実験がほぼなく、ローマ字もまだ習っていない3年生なので、ソフトウェアキーボードを使っても苦労していたが、話し合ったり教え合ったりしながら文字の色や大きさにこだわって作っていた。



写真3 話し合いながらスライドを作る様子

エ ビデオの完成（ビデオ作りグループ：活動2）

それぞれのスライドをパワーポイントに変換し、集約した。それを、ミュージックビデオ作りグループが順番に並び替え、曲に合わせてスライドが自動で切り替わるよう設定した。最終的にビデオ形式に保存し、完成を迎えた。

4. 成果

- プロジェクトのゴールを意識しながら、話し合ったり役割分担したりして協働的に一つのものを作り上げていくことで、自分も、クラスの友達も、みんなどこかで役に立って成り立っている、という実感を強く得ることができ、学級内でお互いを認め合い思いやる意識が高まった。
- 子どもたちの発達段階に合わせ、無理なく効果的にICTを活用させることで、自分たちが作り上げたという思いを強くもたせながら、質の高い仕上がりにすることができた。楽しみながら活動する中で最大限の力を発揮し、大きな達成感と自信につなげることができた。
- 子どもたちから、校内放送のリクエスト曲に応募して全校の児童や先生に聞いてもらおうという発案があった。自分たちで相談しながらリクエスト用紙を書き、応募し、全校に披露することができた。そして、他のクラスや学年から感想を聞き、さらに自信を深めることができた。このように、学級歌作りプロジェクトに取り組んだことで、自分たちで考え、話し合い、協力し合いながら行動できる姿が見られるようになった。

5. 今後に向けて

作成した学級歌は子どもたちにとって大好きな歌となり、2学期以降も保護者や教育実習生に披露したり、お楽しみ会で歌ったりするなど、子どもたちが発案して歌う機会を設けるようになっている。

今後も、よりよい学級作り・人間関係作りを目指して、発展させていきたい。